

入院患者さんのためのベッドサイド情報システム

甘粕敏昭

鹿島建設(株)ITソリューション部

病気治療のために入院中の患者さんには、入院‘生活’をなるべく入院前に近づけたいとの QOL 向上の要望があり、中でもコミュニケーションのニーズが高いと言われる。特にインターネットが普及した現在、メール機能は日常必須のアイテムである。しかしながら近年の目覚ましい医療技術の高度化と比較して、患者さんへの医療周辺サービスは進展が遅れている。従ってこれらの要求に答える‘ベッドサイド情報システム’が今後益々重要性を増すと考えられる。

1. 患者サービスの現状と患者さんのニーズ

‘患者さん中心の医療’が重視される現在でありながら、患者さんが利用できる情報ツールはテレビのみと言う状況が殆どである。しかしながら徐々に患者図書室の開設、情報機器による医療情報の提供、携帯電話から電子カルテ情報参照等のサービスが具体化し始めた。現在、メールによるコミュニケーションの要望と共に、‘参加型医療’が重視される中でのセカンドオピニオンの要求、患者さんや家族側から病院に関する情報への要求の高まりもあり、情報面のサービスの充実が不可欠である。

2. ベッドサイド端末に期待される機能

これらの要求を解決する有望な手段がベッドサイド端末であり、従来のテレビ視聴の他に、インターネット/イントラネットの機能が期待される。ただし入院中の患者さんの利用を想定して、ベッドからの位置、マウス/キーボードの操作性、コンテンツのデザイン等、留意すべき項目は多い。また多くの場合、医療費とは独立した課金処理の機能も必要である。更に病院情報システムとの連動による医療情報の提示やバイタルデータ入力のための医療端末としての機能も期待される。



東大病院様への導入事例

3. ベッドサイド端末が提供できるサービス内容

患者さんへの情報サービスは多岐に渡り、大きく分けると次の分類となる。

(1)医療関連情報

病院情報、入院中の案内、一般医療情報、個人医療関連情報、医療費確認

(2)アメニティ

テレビ、VOD、ホームページ閲覧、施設案内、食事メニュー選択、図書検索

(3)コミュニケーション

eメール、インターネット掲示板、テレビ電話、アンケート収集

4. 課題と将来像

ベッドサイド端末への期待は高まるが、これら全ての機能の実現はコスト、セキュリティ、機器のライフサイクル等の要因から容易ではない。しかし情報ニーズの拡大のため何らかの情報ツールは必須であり、現在のテレビの役割は変わらざるを得ない。今後、ベッドサイド端末は利用者の評価を経て急速に変化・普及すると考えられる。